

<地理歴史科>

指導事例一覧

番号	科目名	言語活動の特色	単元名	分類	活動
1	世界史 A	考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる事例	急変する人類社会 ～『八十日間世界一周』から国際的な移民の増加を考える～	(1)イ(ii)	④⑥
2	世界史 B	事実を解釈し、説明することにより自分の考えや集団の考えを深める事例	資料から読み解く歴史の世界 ～南北戦争における奴隷制論争をめぐる～	(1)イ(i) (ii)	③④ ⑥
3	日本史 A	資料を活用して調べた成果を互いに発表し探究する事例	現代からの探究 ～身の回りの生活道具を通してみた近現代の人々の生活の変化～	(1)イ(ii)	②⑥
4	日本史 B	適切な主題を設定して探究し人物評伝を作成して発表する事例	歴史の論述 ～人物評伝を作成し発表する～	(1)イ(i)	④⑥
5	地理 A	複数の主題図から情報を読み取り、情報を総合した地域区分図を作成する事例	自然環境と防災 ～ハザードマップを「読んで」、私たちの町の防災について考えよう～	(1)イ(i)	④⑤
6	地理 B	適切に統計情報を伝えるため、試行錯誤しながら主題図を作成する事例	地理情報の地図化 ～階級区分図を分かりやすく表現するにはどうすればよいだろう～	(1)ア(ii)	②⑥

<分類、活動の見方>

分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの（詳細は第2章7～9ページ参照）

<p>(1) 知的活動（論理や思考）に関すること</p> <p>ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること</p> <p>(i) 事実を正確に理解すること</p> <p>(ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること</p> <p>イ 事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること</p> <p>(i) 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること</p> <p>(ii) 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること</p> <p>(2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること</p> <p>ア 互いの存在についての理解を深め、尊重すること</p> <p>イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること</p>
--

活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動（詳細は第1章5～6ページ参照）

<p>① 体験から感じ取ったことを表現する</p> <p>② 事実を正確に理解し伝達する</p> <p>③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする</p> <p>④ 情報を分析・評価し、論述する</p> <p>⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する</p> <p>⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる</p>
--

地理歴史－1（世界史A） 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 急変する人類社会 ～『八十日間世界一周』から国際的な移民の増加を考える～			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後期の国際的な移民の増加を通して、地球規模で一体化した世界の特質と構造について理解できる。 国際的な移民の増加の背景として、第二次産業革命による産業と国家の役割の変化について理解できる。 国際的な移民の増加について考察し、調べたことや考えたことをまとめ、表現できる。 			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
国際的な移民の増加から、地球規模で一体化した世界の特質と構造に関心をもち、協同学習に意欲的に取り組み、追究しようとしている。	国際的な移民の増加の背景やその経緯を、世界の動きと関連させて考察し、適切に表現している。	国際的な移民の増加に関する地図や年表、文学作品など諸資料を読み取ったり、まとめたりしている。	国際的な移民の増加から、世界の一体化に関する歴史的背景や経緯を理解し、その知識を身に付けている。
4 単元の概要			
19世紀後期における国際的な移民の増加を歴史的観点から学習し、地球規模で一体化した世界の特質と構造について考察する。学習を進めるに当たっては、協同作業を組織し、グループや学級内での発表や討論を通じて、生徒各自が考察した内容を相互批評し、集団内での共有化を図る。			
5 単元の指導計画(全4時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 第二次産業革命による産業構造の変化と、国家の役割の変容について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地での国際的な移民の増加について確認させ、その要因をワークシートにまとめさせる。 積極的な発表ができるよう、発表のルールや方法についてあらかじめ説明しておく。 グループや学級内の発表内容・意見を記録しておくよう指示する。 国際的な移民の増加について、グループや学級内の発表内容・意見を踏まえて多角的・多面的に検討させ、考察した内容を自分の言葉で論述させる。 	
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後期の世界旅行を描いたヴェルヌの小説『八十日間世界一周』を手掛かりに、第二次産業革命の影響による移動手段の変化や当時の世界情勢を考察し、地球規模での交流が活発化したことを理解する。 国際的な移民の増加の要因や社会への影響について、ワークシートを利用して考察する。 グループに分かれ、生徒各自が考察した内容を発表して意見を出し合い、まとめる。 グループごとにまとめた内容を学級全体に発表する。 グループや学級内の発表内容・意見を踏まえて、国際的な移民の増加の要因や社会への影響について、考察したことを論述する。 		

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

世界史Aは近現代世界を中心とする世界の歴史を理解させるための科目である。今回の改訂で、現代世界の特質と構造を示す事例として、「内容」に国際的な移民の増加が登場した。そのため、世界史Aの指導事例として、内容の(3)「ア 急変する人類社会」を取り上げ、19世紀後期における国際的な移民の増加について扱うことは、意義があると考えられる。

科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。（「世界史A」内容(3)ア）

学習指導要領解説では、現代世界が当面する課題について考察させる手立てとして、生徒自身に調べさせたり、調べた成果を発表させたり、学級全体で討論させたりする活動を設けるよう工夫することとしている。そのため、本指導事例では、このような活動を積極的に取り入れる。

【言語活動の充実の工夫】

今回の事例では、以下の活動を行う。

- ① 生徒各自が国際的な移民の増加の要因や社会への影響を考察する（考察）。
- ② グループに分かれ考察内容を発表し合い、他生徒の内容との比較・検討を通して、各自の考察を深める（検討）。
- ③ グループでの検討結果を学級内で発表する（共有化）。
- ④ 各自が自分や他生徒の考察を比較検討し、その内容を論述する（再構築）。

授業では、ヴェルヌの小説『八十日間世界一周』を用いて19世紀後期の世界情勢を具体的にイメージさせるとともに、国際的な移民が増加したことを認識できるよう、ワークシートによる作業を取り入れる。

この時期の国際的な移民の動向については、ヨーロッパからばかりでなく、中国、南アジアなどからの移民が世界の労働力市場に供給されたことにも着目させる。これら非ヨーロッパ系移民を取り上げることで、国際的な移民の増加が第二次産業革命の影響であることに気付かせることが大切である。そのため、グループでの活動では生徒にワークシート内の非ヨーロッパ系移民に関わる内容に注目させるなどの、教師による働きかけが求められるよう。また、討論に積極的に参加できない生徒に対しては、教師から課題を与え、発言を促すなどの配慮が必要となろう。学級内での発表後、生徒各自に考察結果を論述させることで、自己の意見を再構築させる。教師は生徒のワークシートや論述などの内容だけではなく、その考察過程も積極的に評価したい。

「八十日間世界一周」の世界から、国際的な移民の動きを考えよう！

▼「八十日間世界一周」について（あらすじ 要編集）
 ▼旅行プランは以下の通りである。表の中の「川に入る共通した交通手段は何かしらある？」

区 間	下 路	滞在回数	合計回数
ロンドン → トリノ → スエズ	船	7	7
スエズ → アデン → ソンバイ	（ ）	18	25
ソンバイ → バグダッド → カルタゴ	船	3	28
カルタゴ → シンガポール → 香港	（ ）	18	46
香港 → ニューヨーク	船	6	52
ニューヨーク → サンフランシスコ	（ ）	22	74
サンフランシスコ → シンガポール → ニューヨーク	船	7	81
ニューヨーク → ロンドン	（ ）	0	81

Mark 1 : ①上の表の地名を地図上に示し、フォッグ一行の冒険ルートを記録しよう！
 ②当時国際的な移民が増加した地域はどこか、地図上で指摘しよう。

※往き地図（簡易）

Mark 2 : フォッグ一行がこの旅行（1873年）で見つけたであろう世界の様子についてまとめてみよう。

国 名	社会・大衆情	当時の様子（居住・経済・交通・仕事など）
アメリカ	グランドジャンクション	南北戦争が終結、北洋主義で産業化。1869年に大規模な鉄道が開通。海外から大量の移民がおしよせる。
イギリス		
フランス		
アジア		
インド		
中国(清)	同 治 帝	
日 本	明治天皇	

Mark 3 : この時代（19世紀後半）、国際的な移民の増加が顕著であった次の地域について、背景やその要因（経済的・社会的）を考え、グループ内で話し合おう。
 ① ヨーロッパ地域 ② インド洋地域（インドからの流れ）
 ③ 東南アジア（中国からの流れ） ④ 太平洋地域（中国・あるいは日本からの流れ）

	自分の考察	それ以外の意見
フランス系移民 出資する原因		
ブルネ国 受け入れる原因		

▽政治的・経済的・社会的要因に、いろいろの面から検討してみよう。

Mark 4 : これまで考察してきた国際的な移民の活動について、当時の世界の様子や、移動の要因等をまとめ、400字程度でまとめてみよう。

【学習活動の概要】

1 単元名 資料から読み解く歴史の世界 ～南北戦争における奴隷制論争をめぐって～

2 単元の目標

- ・ 奴隷制論争の背後にあるアメリカ合衆国の政治的・経済的問題について理解できる。
- ・ 奴隷制論争に関する政治・司法判断について考察し，自分の考えをまとめ，表現できる。
- ・ 奴隷制の是非を討論し，互いの考えを深め，南北戦争後のアメリカ社会の変容を理解できる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
奴隷制論争について関心をもち，意欲的に追究しようとしている。	奴隷制論争について多面的・多角的に考察し，適切に表現している。	奴隷制論争について，その時代の資料を読み取ったり，まとめたりしている。	奴隷制論争に関わる基本的な事柄を理解し，その知識を身に付けている。

4 単元の概要

奴隷制の是非をめぐるその時代の資料を読み取り，論争内容を多面的・多角的に考察し，生徒各自の考えや判断をまとめ表現するとともに，討論活動を通して個や集団の考えを深める。

5 単元の指導計画(全4時間)

	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リンカンの誕生日を祝日にする州の分布から，州によってリンカンの捉え方が異なることに気付く。 ・ 奴隷制をめぐる見解に題名を付ける。 〔反対論，賛成論，人民主権論〕 	<p>【討論の前提となる歴史事象の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独立戦争後の西部開拓の様子から，奴隷制をめぐる対立状況を理解させる。 ・ その時代の資料から，討論の前提となる歴史事象を理解させる。
第2次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1850年の妥協から，奴隷制論争に関する政治判断について理解する。 ・ ドレッド・スコット事件（1857年の連邦最高裁）判決の内容を理解し，自分が下す判決をまとめる。 	<p>【討論の観点の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南北戦争前の政治判断は，南北の政治均衡を目指したことを理解させる。 ・ 判決の内容を考察し，討論の観点をつかみ，自分の立場を明確にさせる。
第3次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1860年の大統領選挙の候補者として選挙キャンペーンを実施する。 ・ 戦争が長期化する中でリンカンが下した決断を読み取る。 ・ リンカンの決断に対する自分の考えをまとめる。 ・ その時代の資料を活用し，南北戦争後の社会の変容について理解する。 	<p>【対立する考えの調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各選挙対策チームに，キャンペーンでの論拠を立案するように，教師が支援する。 ・ グループごとの選挙活動の推移を教師が把握し，コアとなる意見を全体にも提示し，討論を深めさせる。 ・ リンカンは戦争自体の目的を自由平等などの実現へと変化させ，自らの決断の普遍的正当性を訴えたことをつかませる。

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例では、内容の(4)「ウ 産業社会と国民国家の形成」で取り扱う南北戦争を、「オ 資料から読み解く歴史の世界」で示されている「主題を設定して行う学習」として位置付けた。

主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。
(「世界史B」内容(4)オ)



内容(4)のオは、今回の改訂で新設された項目である。学習指導要領解説では、この活動（下線部分）を歴史学習の基本的技能の一つとして挙げている。

【言語活動の充実の工夫】



既にあるいくつかの考えから、生徒に意思決定させる授業では、討論の中で自分の考えの妥当性や正当性を幅広い視点から検証するプロセスが大切である。本指導事例では、ジグソー学習を取り入れ、生徒個人の役割を明確にして協同学習に取り組ませた。意欲的な言語活動を促すために、単元の指導計画の中で、学習のねらいに即して次のような段階を踏んだ。

- ① 個別学習Ⅰ…第1次の学習を踏まえて、第2次では生徒個人の意見を明確にする。
- ② 協同学習Ⅰ…第3次で同意見者からなる選挙対策チームをつくり、説得力ある論拠を立てる。
- ③ 協同学習Ⅱ…異なる意見の者でグループをつくり、各自がその中で選挙キャンペーンを行う。
- ④ 協同学習Ⅲ…②のチームにもどり、③で出された意見やその意見への反論を整理し共有する。
- ⑤ 個別学習Ⅱ…リンカンの決断に対する生徒個人の考えをまとめる。

①では、その時代の資料を教師が選択して生徒に示し、歴史事象の理解を促す「問い」を発しながら論点を整理させ、〔賛成派・反対派・人民主権派〕など、個人の意思決定を促す。

②では、相反する考えがもたらす帰結をそれぞれ推測させ、それらを踏まえてチームの考え方がアメリカ合衆国にとってより望ましい選択であることの論拠を提示させる。

③では、②で立てた論拠に基づくグループ討論を行い、問題の所在、解決の手法とそれがもたらす影響など、それぞれの考えをノートにまとめさせる。

④では、③でまとめた内容（ノート）を回覧させながら、それぞれの考えが最終的に目指す達成目標（あるべき国家像など）の違いを考察させる。

⑤では、リンカンの演説・書簡などを教師が選択して生徒に示し、リンカンの考えをノートにまとめさせ、②～④の協同学習の内容を踏まえて個人の意思決定（①）を再考させる。

討論は、言語活動を中心とした表現の一つの手法である。討論に至るプロセスで、その時代の資料を読み取ったり、情報を整理したり、それらを解釈し説明したりする歴史学習の基本的技能が学習できる。年間学習指導計画や生徒の実態などを考慮し、生徒の考えをノートにまとめ発表させたり、それらを相互評価させたりする機会を日常的に授業に取り入れたい。

【学習活動の概要】

1 単元名 現代からの探究 ～身の回りの生活道具を通して見た近現代の人々の生活の変化～			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活道具の変化について調べてまとめる活動を通して、資料活用の技能を高める。 調べた成果を互いに発表し、近現代の人々の生活意識や価値観の変化を探究する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付ける。 			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
近現代の人々の生活の変化への関心を高め、探究活動に意欲的に取り組んでいる。	近現代の人々の生活の変化を時代背景と関連付けて考察し、その結果を適切に表現している。	身の回りの生活に関する諸資料を活用し、工夫しながら年表にまとめている。	近現代の人々の生活の変化を時代背景と関連付けて理解している。
4 単元の概要			
<p>(1) 電話やパソコン、冷蔵庫や洗濯機等の家電など身の回りの生活道具の中から一つを選び、歴史的背景との関連に着目しながら、各自年表を作成する。</p> <p>(2) 異なる題材を選んだ生徒同士がグループを作って互いに成果を発表し、これまでの学習を踏まえながら近現代の人々の生活の変化について探究した上で、各自のまとめを行う。</p>			
5 単元の指導計画 (全4時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 各自が選んだ生活道具について、図書館、博物館や資料館、インターネットなどの資料も活用して調べ、年表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話やパソコン、冷蔵庫等の家電については、次のグループ活動に見合った人数を確保する。 	
第2次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 異なる題材の生徒同士でグループを作り、調べた成果を互いに発表する。 近現代の人々の生活意識や価値観の変化について、歴史的背景と関連付けながらグループ内で探究し、これから目指すべき生活の在り方を含めて意見交換する。 互いの発表と探究を通して考えたことを、各自まとめて文章に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> この際に比較検討しやすいよう、共通の枠組みの年表を用意する。 意見交流が活発になるように、1グループの規模を4～5人程度に調整し、意見交換の時間を十分に確保する。 教師の考えを正答のように示すことはしない。 	

【指導事例と学習指導要領の関連】

今回の指導事例で取り上げたのは、「日本史A」のまとめとして学習指導要領に新設された内容(3)の「ウ 現代からの探究」である。その趣旨を踏まえて、今回は「近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題」として、身の回りの生活道具を取り上げた。

高校生は一般に生活者としての意識が希薄で、歴史的事象を自分自身のこととして捉えるのも難しい面がある。電話やパソコン、冷蔵庫や洗濯機など、普段当たり前のよう利用している道具がもしなかったらどうなるのか。それらがなかった時代の生活の様子や人々の意識はどのようなものだったのか。身近な生活道具の歩みを通して、その背景となる政治や経済など近現代の歴史を生活者の視点から捉え直す学習は、歴史の当時者としての意識や近現代の歴史と現在の自分との結び付きを重視する、新しい日本史Aにふさわしいものだと考えられる。また、身の回りの生活道具は、関係する資料や家族等の経験に根ざした情報を入手しやすい上、誰もが生活実感を踏まえて意見交換を行いやすい。

【言語活動の充実の工夫】

- ① 生徒が積極的に活動に参加するための雰囲気作りが大切である。今の生活を振り返って「もしなかったら困るものは何だろう」と問いかけるなどし、生活に関わる道具を挙げさせた上で、「情報」「通信」「家事労働」などに関わる題材をそれぞれ選ばせる。
- ② 題材は5種類程度が望ましい。40人のクラスであれば、異なる道具を調べた生徒同士の5人グループが8つできることになる。活発な意見交換を行うには、5人ぐらいまでの規模が適当だろう。
- ③ 調べ学習は生徒が個人で行うが、作成する年表の枠組みは統一しておく。これは、グループで意見交換する際に、互いの成果を比較検討しやすくするためである。次にその例を示す。

〈年表の枠組みの例〉

時代(年号)	国内外の主な出来事 *あなたが選んで記入しよう	□の歴史 *その道具の登場以前の生活も調べよう	価値観や生活意識の変化 *そう考えた根拠も示そう

- ④ 年表の作成に際しては、道具の歴史を調べるとともに、それまでの学習を踏まえて、近現代の出来事の中で人々の生活の変化にとって重要だと考えられる事柄を、各自が選ぶことになる。この作業は、自ら歴史を叙述する活動につながるものであり、歴史的な見方や考え方を育てることになる。
- ⑤ グループごとの活動の際には、活発な意見交換ができるように適宜支援をする必要がある。机間巡視をしながら生徒の着眼や発想をほめるなど、各自の考えを自由に表明できるように導く。その際、教師の意見を正答のように述べないように注意する。
- ⑥ グループごとの意見交換の際には、自分の作成した年表に新たに気が付いたことを筆記具の色を変えて記入させていく。こうした工夫を通して、複数人での意見交換によって探究が深まることに気付かせる。他のグループからの発表で気が付いたことがあれば、さらに色を変えて記入させていく。
- ⑦ 最後に、近現代の人々の生活意識や価値観の変化について、考えたことを文章で記述させる。

この活動では、自ら調べたことを土台に、他の生徒からの異なる題材についての情報を加味して再構成する作業を行う。多角的な視点から「生活」を捉え直すことで、これまでの歴史学習への理解がより深まるとともに、これからの自分たちの生活の在るべき姿を考える契機となるようにしたい。

【学習活動の概要】

1 単元名 歴史の論述 ～人物評伝を作成し発表する～

2 単元の目標

- ・ 各自の関心に基づいて選んだ歴史上の人物について、「その人物の行ったことは後世にどのような影響を与えたか」という探究の視点から適切な主題を設定する。
- ・ 設定した主題に基づいて資料を収集・選択して活用しながら探究を進め、人物評伝としてまとめて発表する。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
関心のある人物について主題を設定し探究する活動に意欲的に取り組んでいる。	人物が後世に与えた影響という視点から適切な主題を設定して探究し、その結果を適切に表現している。	設定した主題に基づいて資料を収集し、適切に選択して活用している。	人物が後世に与えた影響を時代背景と関連付けて理解している。

4 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動 科目の学習のまとめとして人物評伝を作成し、その成果を発表する。
 (2) 教材 教科書、副教材（日本史資料集等）、各種資料（生徒が自ら収集したもの）

5 単元の指導計画（全4時間）

	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の関心に基づいて選んだ人物について「その人物の行ったことは後世にどのような影響を与えたか」という探究の視点から適切な主題を設定する。 ・ 収集した資料や情報を整理・分類し、「資料ノート」や「資料ファイル」の形にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初に本単元の趣旨や探究の視点を十分に伝えておき、平素の授業を通して関心のある人物に着目して主題を想定したり関係資料を収集したりさせる。 ・ 平素の授業で人物の扱いや発問の内容を工夫しながら、生徒の課題意識の継続や明確化に努める。
第2次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自が収集した資料を活用して探究を進め、人物評伝を作成する。(個人) ・ 各自の作品を互いに展示し発表する。(グループ、全体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人物の年譜や各種資料の扱い方について、生徒同士で協力させる。 ・ 全作品について展示・発表をさせ、グループ別の代表発表者等を選ばせる。

【指導事例と学習指導要領の関連】

今回の事例では、「日本史B」のまとめの学習として新設された「歴史の論述」を取り上げた。

内容(6)の「ウ 歴史の論述」

社会と個人，世界の中の日本，地域社会の歴史と生活などについて，適切な主題を設定させ，資料を活用して探究し，考えを論述する活動を通して，歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。

この項目では，社会生活と関わる具体的な主題を生徒自身が設定し，それまでに身に付けてきた知識や技能を活用して探究を進め，その成果を互いに公表することが求められている。

そこで本事例では，「日本史B」で学習した中から関心のある人物を選び，生涯の活動・業績やそれが後世に与えた影響などを探究して，人物評伝を作成し発表する学習活動を設定した。

【言語活動の充実の工夫】

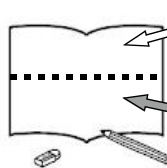
① 「適切な主題を設定」する活動について

- ・人物評伝の主題設定の条件として，「その人物の行ったことは後世にどのような影響を与えたか」という探究の視点を示す。生徒はこの条件に即して，平素の授業を通して扱う人物や探究する主題を具体的に想定していくことになる。問題関心が「世界の中の日本」であれば，「国際社会に影響を与えた日本人」「日本社会に影響を与えた外国人」などの方向での具体化が考えられる。

- ・有意義な主題設定のためには，平素の授業が重要な位置を占める。平素の授業で，教師は歴史事象の本質に関わる発問を投げかける。生徒は自らの考えや学習の状況を，自らの言葉でノート等に記録する学習活動を習慣化していく。こうした日常的な積み重ねが，本単元で生徒自身の主体的な主題設定や探究活動を促して，その質を高めるための前提となるのである。

平素の授業ノートの活用例

～授業の記録として・知の蓄積として～



見開き上段) 毎時の授業の板書事項や講義内容を記録するスペース。
見開き下段) 生徒自らが工夫して効果的に使うスペース。発問への自己解答案，予習・復習を含めた自己学習の状況，歴史上の人物への印象や着眼など。

② 「資料を活用して探究」する活動について

- ・夏休み等を含めた日常の時間で，生徒は資料を探して情報を収集し，それらを整理・分類して人物評伝のイメージやストーリーを構築していく。地域の文化遺産や博物館，文書館等で「歩く，見る，聞く」等の学習活動を通して，諸資料を活用する機会を設定させることも大切である。
- ・ここでの学習活動は，学習指導要領の内容(1)の「ア 歴史と資料」，(2)の「ア 歴史の解釈」，(3)の「ア 歴史の説明」で習得してきた知識や技能，思考力・判断力・表現力等の総合的な活用ともいえるべきものであることを，教師と生徒が共に認識しておくことが大切である。

③ 「考えを論述」する活動について

- ・人物評伝の作成に際しては，作品を他者に公表することを念頭に置いて活動を進めさせる。
- ・司会進行など生徒が発表会を主導する形を設定し，相互の交流を活性化することも考えられる。
- ・発展的な言語活動として，発表された作品の中から新たな主題を引き出して，ディスカッションを行うことも考えられる。①で触れた事例であれば，例えば「国際人とはどのように定義することができるだろうか」などのテーマで学習を深めていくことができる。

【学習活動の概要】

<p>1 単元名 自然環境と防災 ～ハザードマップを「読んで」、私たちの町の防災について考えよう～</p>															
<p>2 単元の目標 身近な地域の地形図やハザードマップなどの主題図，さらに各種資料の読み取りを通じて，日常生活と結び付いた地理的技能を身に付けさせるとともに，我が国や生活圏における自然環境の特色と自然災害との関わりについて理解させ，日常における防災意識を高める。</p>															
<p>3 単元の評価規準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>資料活用の技能</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自然環境と防災に対する関心と課題意識を高め，それを意欲的に追究し，捉えようとしている。</td> <td>自然環境と防災を，我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりを基に多面的・多角的に考察するとともに，地域性を踏まえた対応の大切さを考察し，その過程や結果を適切に表現している。</td> <td>自然環境と防災に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。</td> <td>自然環境と防災について，我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりと地域性を踏まえた対応の大切さを理解し，その知識を身に付けている。</td> </tr> </tbody> </table>				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	自然環境と防災に対する関心と課題意識を高め，それを意欲的に追究し，捉えようとしている。	自然環境と防災を，我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりを基に多面的・多角的に考察するとともに，地域性を踏まえた対応の大切さを考察し，その過程や結果を適切に表現している。	自然環境と防災に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	自然環境と防災について，我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりと地域性を踏まえた対応の大切さを理解し，その知識を身に付けている。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解												
自然環境と防災に対する関心と課題意識を高め，それを意欲的に追究し，捉えようとしている。	自然環境と防災を，我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりを基に多面的・多角的に考察するとともに，地域性を踏まえた対応の大切さを考察し，その過程や結果を適切に表現している。	自然環境と防災に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。	自然環境と防災について，我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりと地域性を踏まえた対応の大切さを理解し，その知識を身に付けている。												
<p>4 取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 読図による情報収集から地域区分図を作成するとともに地域差の発生要因の考察 (2) 教材 ハザードマップ（「揺れやすさマップ」・「地域の危険度マップ」つくば市発行）</p>															
<p>5 単元の指導計画（全10時間）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学 習 活 動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次 (2)</td> <td>・日本各地の自然環境の地域差を概観し，日本の自然災害の典型的な事例を学習する。</td> <td>・自然環境と人との結び付きという観点で日本の自然災害について生徒が体系的に把握できるように努める。</td> </tr> <tr> <td>第2次 (3)</td> <td>・ハザードマップの読図（「揺れやすさマップ」・「地域の危険度マップ」を使用） ・地域の特徴を表に整理する。 ・ベースマップを作成し，地域区分図を作成する。</td> <td>・2枚の地図から得られた情報について，各地域のおおまかな特徴を表形式で整理させる。 ・作業用のベースマップを作成させ，各地域の特徴を端的に分かりやすく示せる地域区分図を検討させる。 ・作成した地域区分図を基に，各地域の特徴に着目させ，地域差が発生する要因について考えさせるとともに，災害の要因について仮説を立てさせる。</td> </tr> <tr> <td>第3次 (5)</td> <td>・インターネット等を使って資料を収集し，仮説の検証を実施する。 ・調査結果や防災対策についての考察をレポートに整理する。 ・学習した調査方法を応用し，他の地域や他の災害についても調査する。</td> <td>・インターネット等で適切な迅速測図や空中写真，土地条件図等の資料を収集し，検証させる。 ・収集された資料を基に生徒相互の情報交換を促すとともに，机間を巡視して個別に指導を行う。 ・地域の防災の現状について調査し，自分でできる行動や必要な対策について考えさせる。 ・調査や協議の過程において，実際の居住者等に対する配慮を怠らぬよう十分に留意させる。</td> </tr> </tbody> </table>					学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	第1次 (2)	・日本各地の自然環境の地域差を概観し，日本の自然災害の典型的な事例を学習する。	・自然環境と人との結び付きという観点で日本の自然災害について生徒が体系的に把握できるように努める。	第2次 (3)	・ハザードマップの読図（「揺れやすさマップ」・「地域の危険度マップ」を使用） ・地域の特徴を表に整理する。 ・ベースマップを作成し，地域区分図を作成する。	・2枚の地図から得られた情報について，各地域のおおまかな特徴を表形式で整理させる。 ・作業用のベースマップを作成させ，各地域の特徴を端的に分かりやすく示せる地域区分図を検討させる。 ・作成した地域区分図を基に，各地域の特徴に着目させ，地域差が発生する要因について考えさせるとともに，災害の要因について仮説を立てさせる。	第3次 (5)	・インターネット等を使って資料を収集し，仮説の検証を実施する。 ・調査結果や防災対策についての考察をレポートに整理する。 ・学習した調査方法を応用し，他の地域や他の災害についても調査する。	・インターネット等で適切な迅速測図や空中写真，土地条件図等の資料を収集し，検証させる。 ・収集された資料を基に生徒相互の情報交換を促すとともに，机間を巡視して個別に指導を行う。 ・地域の防災の現状について調査し，自分でできる行動や必要な対策について考えさせる。 ・調査や協議の過程において，実際の居住者等に対する配慮を怠らぬよう十分に留意させる。
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点													
第1次 (2)	・日本各地の自然環境の地域差を概観し，日本の自然災害の典型的な事例を学習する。	・自然環境と人との結び付きという観点で日本の自然災害について生徒が体系的に把握できるように努める。													
第2次 (3)	・ハザードマップの読図（「揺れやすさマップ」・「地域の危険度マップ」を使用） ・地域の特徴を表に整理する。 ・ベースマップを作成し，地域区分図を作成する。	・2枚の地図から得られた情報について，各地域のおおまかな特徴を表形式で整理させる。 ・作業用のベースマップを作成させ，各地域の特徴を端的に分かりやすく示せる地域区分図を検討させる。 ・作成した地域区分図を基に，各地域の特徴に着目させ，地域差が発生する要因について考えさせるとともに，災害の要因について仮説を立てさせる。													
第3次 (5)	・インターネット等を使って資料を収集し，仮説の検証を実施する。 ・調査結果や防災対策についての考察をレポートに整理する。 ・学習した調査方法を応用し，他の地域や他の災害についても調査する。	・インターネット等で適切な迅速測図や空中写真，土地条件図等の資料を収集し，検証させる。 ・収集された資料を基に生徒相互の情報交換を促すとともに，机間を巡視して個別に指導を行う。 ・地域の防災の現状について調査し，自分でできる行動や必要な対策について考えさせる。 ・調査や協議の過程において，実際の居住者等に対する配慮を怠らぬよう十分に留意させる。													

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

この事例で示した「地理A」の内容(2)イ「自然環境と防災」では、我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させることとしている。

ここでの内容の取扱いには、(1)ウ「地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること」に関連して言語活動の指導を行うことが求められている。よって、この事例で扱う地図の読図や作図を基に地理的事象の説明や論述する活動は、思考力、判断力、表現力等の基盤となる言語力を育成するために必要なものであり、身近な地域について地図の丹念な読図や地図化、調査などの活動は、言語活動の充実を図る指導として有効であると考えられる。

【言語活動の充実の工夫】

① 複数の地図の読図、地域区分、仮説立案

図1の2枚の地図を読図して地域区分を行い、各個人で作成したベースマップに区分を記入して地域区分図(図2左)を作成させる。その上で、それぞれの地域差が発生する要因についての仮説をワークシート(図2右)にまとめさせる。このとき必要に応じて、市域が山地、洪積台地、沖積低地に大別できることや、東と西の沖積低地で危険度に差があることなどを補足として指摘することも考えられる。

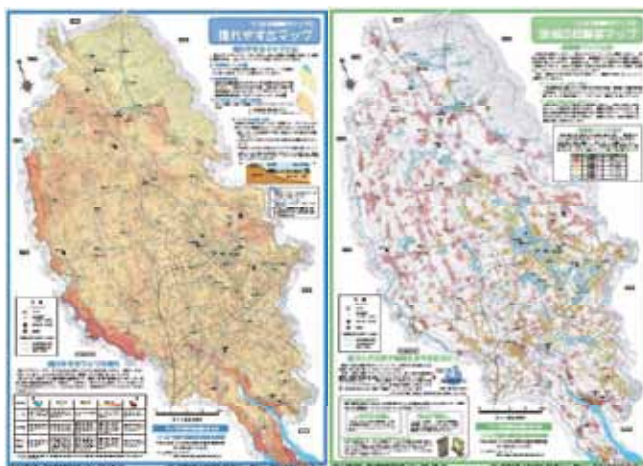


図1 『揺れやすさマップ』(左)『地域の危険度マップ』(右)

② 様々な資料を使った仮説の検証

インターネットで閲覧可能な資料(迅速測図、土地条件図、空中写真等)を利用して、各区分の自然環境や社会環境について考察させる。利用できる資料について全体指導するとともに、生徒が作成した諸資料は毎時提出を求め、進捗状況を確認して個別にもアドバイスを与える。また、関東平野の形成史の資料を提示し、地形と地震被害との相関についても概説する。

③ 異なる地域や項目についての個人調査

学習した内容を基に地域や項目を変えて各自で調査させる。市外在住者には自分の市町村を、市内在住者は洪水などの他のハザードマップや任意の市町村について調査させる。なお、ハザードマップは特定の条件設定で作成されたものであり、過度に楽観したり悲観したりしないように注意するとともに、実際の居住者に対して十分配慮するよう留意して指導する。



A 沖積低地、中央部低地	
【特徴】	沖積低地は、河川が氾濫する危険性が高い。また、中央部低地は、地盤が軟弱で、地震による揺れやすさが高い。
【課題】	河川氾濫による被害の軽減と、地盤の改良による揺れやすさの軽減が課題となる。
【仮説】	沖積低地は、洪水被害のリスクが高い。中央部低地は、地震被害のリスクが高い。
【検証】	洪水被害の軽減には、堤防の整備や河川の改修が必要。地盤の改良には、地盤改良工法や基礎の強化が必要。
B 沖積台地	
【特徴】	沖積台地は、地盤が比較的硬い。しかし、河川氾濫のリスクがある。
【課題】	河川氾濫による被害の軽減が課題となる。
【仮説】	沖積台地は、洪水被害のリスクがある。
【検証】	洪水被害の軽減には、堤防の整備や河川の改修が必要。
C 洪積扇部	
【特徴】	洪積扇部は、地盤が軟弱で、地震による揺れやすさが高い。
【課題】	地震による揺れやすさの軽減が課題となる。
【仮説】	洪積扇部は、地震被害のリスクが高い。
【検証】	地震被害の軽減には、地盤改良工法や基礎の強化が必要。
D 山地部・丘陵部	
【特徴】	山地部・丘陵部は、地盤が硬い。しかし、土砂災害のリスクがある。
【課題】	土砂災害による被害の軽減が課題となる。
【仮説】	山地部・丘陵部は、土砂災害のリスクがある。
【検証】	土砂災害の軽減には、土砂災害防止工法や避難経路の確保が必要。

図2 地域区分図(左)と地域区分・仮説をまとめた表(右)

【参考文献】

- 国土交通省ハザードマップポータルサイト
<http://disaportal.gsi.go.jp/>
 空中写真(国土変遷アーカイブ)
<http://archive.gsi.go.jp/airphoto/>
 土地条件図
http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_index.html
 関東地方の迅速測図(歴史的農業環境閲覧システム)
<http://habs.dc.affrc.go.jp/>

地理歴史－6(地理B) 適切に統計情報を伝えるため、試行錯誤しながら主題図を作成する事例

【学習活動の概要】

<p>1 単元名 地理情報の地図化 ～階級区分図を分かりやすく表現するにはどうすればよieldろう～</p>																				
<p>2 単元の目標 「情報を適切に地図で示すにはどうすればよieldのか。」という学習課題を解決するために、地理情報の地図化を通して、現代世界に関する統計を国別の地理情報に加工・分析し、表現方法を多角的に考察して適切に主題図を作成する。</p>																				
<p>3 単元の評価規準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>思考・判断・表現</th> <th>資料活用の技能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地理情報と地図について、作成した主題図の妥当性を地図の有用性などを基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</td> <td>地理情報の地図化を通して、地理情報と地図に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、地理情報システム(G I S)ソフト等を利用して読み取ったり図表などにまとめたりしている。</td> </tr> </tbody> </table>			思考・判断・表現	資料活用の技能	地理情報と地図について、作成した主題図の妥当性を地図の有用性などを基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地理情報の地図化を通して、地理情報と地図に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、地理情報システム(G I S)ソフト等を利用して読み取ったり図表などにまとめたりしている。														
思考・判断・表現	資料活用の技能																			
地理情報と地図について、作成した主題図の妥当性を地図の有用性などを基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地理情報の地図化を通して、地理情報と地図に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、地理情報システム(G I S)ソフト等を利用して読み取ったり図表などにまとめたりしている。																			
<p>4 取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 統計の加工・分析を通じた目的に応じた主題図の適切な表現方法についての考察 (2) 教材 統計資料, 表計算ソフト, G I Sソフト</p>																				
<p>5 単元の指導計画 (1) 内容のまとめり(中項目:「地理情報と地図」)の計画(全8時間)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学 習 活 動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次 (2)</td> <td>・地球儀の活用</td> <td>・世界地図では理解が難しい事象を地球儀を用いることで理解させ、両者の違いを比較考察させる。</td> </tr> <tr> <td>第2次 (2)</td> <td>・様々な時代や種類の世界地図の読図</td> <td>・時代の異なる地図から各時代の人々の世界観を捉えさせるとともに、様々な種類の地図から特徴を見だし、使用目的に応じた適切な地図を選択させる。</td> </tr> <tr> <td>第3次 (4)</td> <td>・地理情報の地図化(本単元)</td> <td>・目的に応じてベースマップを選択し、統計を加工・分析して主題図の適切な表現方法を考察させる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 単元(第3次)の展開(全5～8/8時間)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第5時 第6時</td> <td>・表に示された統計情報から主題図として地図化する意義を考察する。 ・正角図法と正積図法による2つの世界図を比較・考察する。</td> <td>・G I Sソフトを利用した試行錯誤的な地図化を通して、元の表との比較から、地図化によって統計の分布や偏り等が見えやすくなることに気付かせる。 ・2種類の地図の比較・考察を通して、目的に応じた図法の選択について考察させる。</td> </tr> <tr> <td>第7時 第8時</td> <td>・主題図の作成を通して、より分かりやすく表現するための工夫を考察し、検討する。 ・発表した主題図を比較、検討し、作成の法則を追究する。</td> <td>・二人一組で作業を繰り返し行わせ、その検討を通して適切な主題図作成のノウハウを考察させる。 ・発表された複数の主題図の比較から、その関係性についての新たな情報を考察するとともに、適切な主題図作成の法則と地図の有用性に気付かせる。</td> </tr> </tbody> </table>				学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	第1次 (2)	・地球儀の活用	・世界地図では理解が難しい事象を地球儀を用いることで理解させ、両者の違いを比較考察させる。	第2次 (2)	・様々な時代や種類の世界地図の読図	・時代の異なる地図から各時代の人々の世界観を捉えさせるとともに、様々な種類の地図から特徴を見だし、使用目的に応じた適切な地図を選択させる。	第3次 (4)	・地理情報の地図化(本単元)	・目的に応じてベースマップを選択し、統計を加工・分析して主題図の適切な表現方法を考察させる。	第5時 第6時	・表に示された統計情報から主題図として地図化する意義を考察する。 ・正角図法と正積図法による2つの世界図を比較・考察する。	・G I Sソフトを利用した試行錯誤的な地図化を通して、元の表との比較から、地図化によって統計の分布や偏り等が見えやすくなることに気付かせる。 ・2種類の地図の比較・考察を通して、目的に応じた図法の選択について考察させる。	第7時 第8時	・主題図の作成を通して、より分かりやすく表現するための工夫を考察し、検討する。 ・発表した主題図を比較、検討し、作成の法則を追究する。	・二人一組で作業を繰り返し行わせ、その検討を通して適切な主題図作成のノウハウを考察させる。 ・発表された複数の主題図の比較から、その関係性についての新たな情報を考察するとともに、適切な主題図作成の法則と地図の有用性に気付かせる。
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点																		
第1次 (2)	・地球儀の活用	・世界地図では理解が難しい事象を地球儀を用いることで理解させ、両者の違いを比較考察させる。																		
第2次 (2)	・様々な時代や種類の世界地図の読図	・時代の異なる地図から各時代の人々の世界観を捉えさせるとともに、様々な種類の地図から特徴を見だし、使用目的に応じた適切な地図を選択させる。																		
第3次 (4)	・地理情報の地図化(本単元)	・目的に応じてベースマップを選択し、統計を加工・分析して主題図の適切な表現方法を考察させる。																		
第5時 第6時	・表に示された統計情報から主題図として地図化する意義を考察する。 ・正角図法と正積図法による2つの世界図を比較・考察する。	・G I Sソフトを利用した試行錯誤的な地図化を通して、元の表との比較から、地図化によって統計の分布や偏り等が見えやすくなることに気付かせる。 ・2種類の地図の比較・考察を通して、目的に応じた図法の選択について考察させる。																		
第7時 第8時	・主題図の作成を通して、より分かりやすく表現するための工夫を考察し、検討する。 ・発表した主題図を比較、検討し、作成の法則を追究する。	・二人一組で作業を繰り返し行わせ、その検討を通して適切な主題図作成のノウハウを考察させる。 ・発表された複数の主題図の比較から、その関係性についての新たな情報を考察するとともに、適切な主題図作成の法則と地図の有用性に気付かせる。																		

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

この事例で示した「地理B」の内容(1)ア「地理情報と地図」では、地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに、地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付けさせる

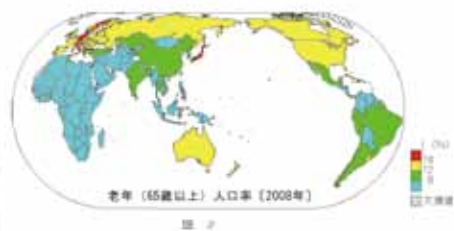
こととしている。このうち、この事例では、主に下線を施した部分を内容として構成している。ここでの内容の取扱いに関しては、(1)ウ「地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること」に留意し、特に「自分の解釈」について、適切な主題図を作成する上で特に自分自身で留意した点を、授業では生徒に「こだわり」という言葉で提示して学習活動の方向性を明示し、意欲的に探究を行わせようとした。

【言語活動の充実の工夫】

① 地図作成ソフトの活用で「試行錯誤」を可能とし、多面的・多角的に情報を分析し、考察する。

表1 国別のソート

国名	人口	高齢者人口	高齢者人口率
中国	13.7億	1.7億	12.4%
インド	12.1億	1.1億	9.1%
アメリカ	3.1億	0.4億	12.9%
ロシア	1.4億	0.2億	14.3%
ブラジル	2.0億	0.2億	10.0%
インドネシア	2.4億	0.2億	8.3%
日本	1.2億	0.3億	25.0%
韓国	0.5億	0.1億	20.0%
フランス	0.7億	0.1億	14.3%
ドイツ	0.8億	0.1億	12.5%
イタリア	0.6億	0.1億	16.7%
英国	0.6億	0.1億	16.7%
スペイン	0.4億	0.1億	25.0%
オーストラリア	0.2億	0.05億	25.0%
南アフリカ	0.2億	0.05億	25.0%
ロシア	1.4億	0.2億	14.3%
中国	13.7億	1.7億	12.4%
インド	12.1億	1.1億	9.1%
アメリカ	3.1億	0.4億	12.9%
ロシア	1.4億	0.2億	14.3%
ブラジル	2.0億	0.2億	10.0%
インドネシア	2.4億	0.2億	8.3%
日本	1.2億	0.3億	25.0%
韓国	0.5億	0.1億	20.0%
フランス	0.7億	0.1億	14.3%
ドイツ	0.8億	0.1億	12.5%
イタリア	0.6億	0.1億	16.7%
英国	0.6億	0.1億	16.7%
スペイン	0.4億	0.1億	25.0%
オーストラリア	0.2億	0.05億	25.0%
南アフリカ	0.2億	0.05億	25.0%

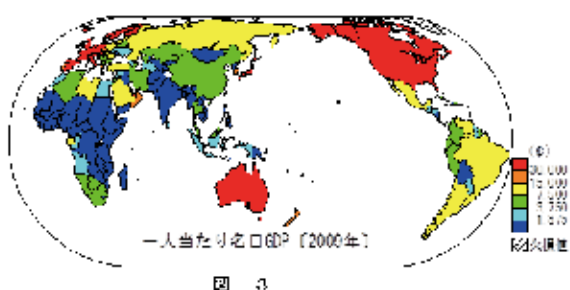


次の2点について、表計算ソフトやGISソフトを使用することにより、短時間で数多くのパターン主題図を作成、分析、考察させるとともに、地図化の意義について理解を深めさせる。

- i) 表計算ソフトによる国別データ(表1)のソートと比較すると、GISソフトにより作成した国別データを地図化した主題図(図1~4)の方が、位置や他の場所との関係性等で、多くの事項が瞬時に読み取れること
- ii) 階級区分図の作成において、例えば、「老年人口」というテーマを扱う場合、国別の老年人口(図1)のような絶対的な数値を扱うよりも、国別の老年人口率(図2)のような相対的な数値を扱う方が、地域の特色を見いだしやすいこと

② 地図化の共同作業を通して生まれた自らの考えをお互いに発表し、自らの考えを発展させる。

GISソフトを利用し、様々な視点から主題図を繰り返し作成させ、適切な表現方法となるための気付きを「こだわり」という形で生徒から引き出し、二人一組の作業班でそれぞれ検討させ、その成果(図3)をクラス全体に発表させる。発表を聴く中で、「こだわり」が高じると、極めて意図的な主題図(図4:階級幅を等間隔にすることに「こだわり」すぎた例)となる恐れもあることに気付かせ、情報に対する的確な分析力が必要であることを発展的に理解させる。



③ 個々の地図がもつ情報を比較、総合することで、新たな情報を引き出す。

各自が作成した主題図について、(自ら或いは他者の作成した)別テーマの主題図との比較を通して、その関係性を探らせる。単元の終結時に、複数の主題図を取り上げて比較・考察させ、気付いた点を発表させることで、異なる主題図の組合せにより新たな情報の引き出しが可能であり、新たに地域の特色や現代世界の諸課題を見いだし得ることに気付かせることができる。